



コスタリカ共和国 草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 30

2018.12.30

～小幅だが一歩ずつ前進～

NPO 法人イフパット 研究員 宮崎 雅之
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

¡Feliz Año Nuevo! こんにちは、今号も前回に引き続きグループ活動と個人活動を紹介させていただきます。

高齢者向けイベント: サンタリタのグループ活動として、地域のお年寄りたちに対してレクリエーションが実施されました。グループ活動としては、学校菜園作り、有機肥料作成、集団ウォーキング、集落清掃活動、等々取り組んできましたが、グループとして常に地域の人たちのために何かを実現したいという気持ちがありました。特に身近にいるお年寄りに対して何かしたいという気持ちが前々から強くありました。たくさん的高齢の方が村にいるが、見捨てられたような存在になっているとグループ員は危惧していました。当初の話合いではデイサービスを提供できる高齢者施設の建設という話が挙がっていましたが、土地や費用を考慮するとすぐに取り組むことは難しいという判断となり、長期目標の1つとして設定されました。まず、高齢者のために出来ることとして、月1回定期的に近隣のお年寄り（65歳以上）を招待してレクリエーションを実施するという運びとなりました。実現までに1ヵ月の準備期間を要し、極力自分たちだけの力で運営が出来るようにあらゆる資源の活用、周辺住民の協力を得て、村の屋外公共スペースを活用して約30名のお年寄りに対して、エクササイズ、ダンス、ゲーム、お菓子・お昼ご飯の提供が行われました。2回とも大盛況で終わり、グループ員自身も「私が必要とされている、誰かの役に立っている。」という満足感に浸っていました。一回目に関しては、オロティナ市役所からのサプライズとし

て簡単な茶菓子の提供がありましたが、2 回目は背もたれつきの椅子貸与を受けただけ、あとは自分たちの力だけでイベントを実現しました。



写真 1. グループ員の手作りお菓子



写真 2. 軽食（アロス・コンポジヨ）の提供



写真 3, 4. お昼ご飯の準備と提供



写真 5. 集合写真（第二回）



写真 6. 貸与いすの運び出し

セバディージャ・ノルテでのグループ活動：グループ活動として、前号でご紹介した集落の美化活動が行われているのですが、住民がより自分の住む集落が好きになるように、さらに訪問者に、この地域がセバディージャであることがわかるようにバス停に「ようこそ！セバディージャへ」という看板（その辺りに捨ててあった廃材と各自が持っていたペンキを利用して）が設置されました。また、バス停に設置した簡易ごみ箱にも「美化活動にご協力をお願いします。」と書いた看板が設置されました。看板を設置する際にはグループ員の配偶者の協力や近隣住民の協力がありました。そして、この看板を見たことをきっかけに集落の男性が自主的に、曲がっていたバス停のベンチを修理し、剥がれていたペンキを塗り直すという嬉しい協力がありました。これには、グループ員もゴミ箱や看板設置した甲斐があったと喜んでいました。

しかし、嬉しいことばかりではありませんでした。バス停に設置したミニ花壇の花が何者かによって引っっこ抜かれていました。それも一度ではなく二、三度。私はさぞかしショックだっただろうと思っていましたが、「やっぱり無意味に荒らす人出てくるよね。」と意外とグループ員は冷静で、毎回植え直していました。少しずつですが、住民一人一人が地域のために何を出来るかを考え、一歩ずつより良い集落に近づいて来ています。



写真 7. 8. 看板作成風景





写真 9-12. 看板設置風景

グループ員の個人活動紹介：

・エルサさん

生活改善グループ員として約3年の経験のあるエルサさんは、住宅、健康、家族関係、家計、教育、自然環境のテーマにおいて、さまざまな改善活動（プラ・ピダ 26 号参照）を行ってきました。その中でも住宅改善は、国の住居支援プログラムを活用した新築の家（2LDK）を申請していましたが建設が何年後か先の予定だったため、現状の家の台所や中庭をコツコツと改善してきました。しかし、長年の夢であった新築建設が急遽始まることになりました。エルサさんもこれにはびっくり。この支援プログラムには何種類があり、エルサさんの場合は、すべて支給されるのではなく、必要な証書の手配、油圧ショベルを使用して土地を平にする作業は本人がやる必要があります。そのため、急ピッチで様々な手続きを行っていました。そのような忙しい中でも、家庭菜園を管理し、少量でも安定的な野菜の収穫を維持し、スーパーで購入せず自家消費分はこの菜園で賄っていました。また、家庭菜園では松川町の佐々木さん宅で学んだ、苗の根の成長を助けるために共生させると良いとされる植物を植える等、日本で学んだことを早速実践していました。また、社会保障庁の開催する健康に関する講義を受けたり、これまで生活改善アプローチの中で学んだことを PANI（国立児童福祉庁）のイベントで発表するなど、自己啓発や生活改善運動の波及にも努めています。



写真 13. 油圧ショベルにての作業



写真 14. 新築建設風景



写真 15. 家庭菜園



写真 16. 苗の根の成長を助けるため手法



写真 17, 18. 生活改善活動についての発表

・スーシーさん

本邦研修に参加したスーシーさん。コスタリカでは生活改善ワークショップに途中から参加し、不足部分はファシリテーターによって実施された短期集中ワークショップを通して生活改善の概要を理解し、日本に行く前から家庭で行える改善、またグループとして行える改善活動に頭を悩ませて来ました。ワークショップに参加する以前から、暑さを和らげるために自宅の周りに砂利を敷いたり、天井と部屋の隙間に網を挟んだり工夫が見られたのですが、さらに洗い場の改善、空きスペースの有効活用、肥満改善のための食生活の見直し等に取り組んでいます。

また、本邦研修で学んだことを家族やグループ員、集落の人々に積極的に伝えていきます。市役所、保健省と組んで、グループ活動として定期的に行っている集落美化活動の経験を他の集落に事例紹介しています。今期はセバディージャ自治会の役員として地域の発展に貢献しようとしたが、仕事の関係で総会に参加することが出来なかったため辞退したとのことでした。しかし、引き続き集落で出来ることを考えています。



写真 19. 生活改善活動事例についての発表

Fecha	Peso	IMc
7-5-18	79.2	30.9
—	77.9	—
—	77.2	—
5/6/18	77.2	—
12/6/18	76.2	—
19/6/18	76.5	—
12/7/18	75.2	—
6/8/18	73.8	—
—	—	—



写真 20, 21. 生活改善活動事例（健康・住居）



写真 22, 23. 生活改善活動事例（台所改善）